

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

発行：県立多治見病院緩和ケアチーム 2019年9月号 vol.100
文責：大津 陽子・伊藤 浩明

すっかり秋らしくなってきた今日この頃、皆さんはいかがお過ごしですか？

私は先日、両親と淡路島にバス旅行に出掛けました。明石海峡大橋やNHK 紅白歌合戦で話題となった大塚国際美術館は圧巻でした。と同時に無事に帰宅し日常生活に戻る安心感も格別なものでした。日常と非日常、どちらもかけがえのないものだなあと改めて思いました。

「第2の家」がコンセプトの1つである緩和ケア病棟。緩和ケア病棟で過ごす時間は患者さんやご家族にとって日常でしょうか、非日常でしょうか。

どちらにしても貴重な時間。一瞬一瞬の時間を大切に過ごしていきたいと今回の旅行から感じました。



<緩和ケア市民公開講座のご案内>

10月13日（日）に、パロー文化ホールで「2019年度緩和ケア市民公開講座」が行われます。

例年行われている市民公開講座ですが、今年は「人生会議」についての講演を予定しております。神戸大学教授の木澤義之先生をお招きして、「人生会議」の実際についてご講演していただきます。

「人生会議」とは、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の愛称として2018年に厚生労働省が決定し、11月30日(いい看取り)を「人生会議の日」として普及啓発に努めるように定められました。

最近、「エンディングノート」とか「終活」として話題になっていますが、もしもの時のために自分の望む医療やケア、生活について家族と話し合っておくこと、特に命を脅かす病気にかかっている患者さんは、医療者とも今後予想される経過や余命などを含めて話し合っておくことが、自分らしく生きるのに重要ではないでしょうか。

3連休の真ん中の日ですが、もしご都合がよろしければ、当日参加も構いませんのでご参加してみたいかがでしょうか？

*質問、ご意見などございましたら、kanwa@tajimi-hospital までメールでご連絡ください。